Senior nurse

## 患者さんが元気になり退院される姿を見ることが看護の喜びです。

**先輩看護師**　5階西病棟　古川（ふるかわ） 洋平（ようへい）

私が勤務している消化器外科病棟は、胃癌や大腸癌、肝臓癌などの手術を目的とした患者さんが多く入院しています。日々の患者・家族ケアを通じ、周術期看護を専門的に学ぶことができます。患者さんは、疾患に対する不安、手術に対する不安、痛みに対する不安など多くの不安を抱えて入院してきます。身体的な苦痛だけでなく、精神的な苦痛にも寄り添う看護を行っています。また、経腸栄養や、人工肛門の管理が必要な患者さんが多く、その人の生活に合わせた指導を行い、在宅療養につなげています。様々な問題を抱えながらも住み慣れた自宅での生活を望む患者さんも多く、多職種と連携しながら社会資源の導入について検討し、患者さんやご家族のニーズに沿った退院支援を行っています。まだまだ経験も浅く、患者さん一人ひとりに合わせた看護を行うことの難しさを感じることもありますが、頼れる先輩や同期の支えもあり、毎日楽しく働いています。患者さんが元気になり、退院される姿を見る時が、看護の喜びを実感できる瞬間です。

### 看護部長からのメッセージ

## 認め合い、支え合い、成長する看護部で、自分らしい看護を実践しませんか。

がんセンターは、高度先進がん医療を実践するがん診療連携拠点病院として、「日本一患者さんと家族に優しい病院」を目指しています。平成25年には、新病院に移転し、病院の理念である「唯命惜～ただ命を惜しむ～」のもと、がんで苦しむことのない世界を目指すために、がんの痛みをはじめとする苦痛症状の緩和に向けた看護を実践しています。

私たち看護師がもっとも大切にしていることは、患者さん一人ひとりがその人らしく生きることを支えることです。そのために、その一瞬一瞬を大切に患者さんやご家族に寄り添い、思いやりのある心のこもった看護を実践しています。

がん看護からはじまる看護師としての道のりは、大変なことかもしれません。なぜなら、がん看護は患者さんに寄り添うだけではなく、その患者さんの心や人生に向き合っていくことになるからです。しかし、それはあらゆる看護の場面で必要とされる力であり、看護の基本ともいえます。また、患者さんやご家族の喜びを自分の喜びに変え、仕事を通して自己成長できることもがん看護の魅力です。「がん看護が好き」と自信と誇りをもち看護に取り組む先輩看護師と共に、ここがんセンターで看護師としての第一歩を踏み出してみませんか？自分らしい看護が実践できるよう「認め合い、支え合い、成長する看護部」が全力でサポートします。

佐川　みゆき
副病院長兼看護部長